２．分析・検討

2－1　樹林の変遷　　1979現存植生図と2024相観植生図（8頁）の比較

1979～2024の植生遷移

①遷移が少なかった群落：イチイガシ群落、コナラ・クヌギ群落

②一部遷移した群落　：コジイ群落　⇒　スギ・ヒノキ植林、ほか
サクラ植栽林 ⇒ シラカシ・コジイ群落、ほか

③遷移した群落　：アカマツ群落　⇒　様々な樹林

1979　奈良公園現存植生図（樹林）

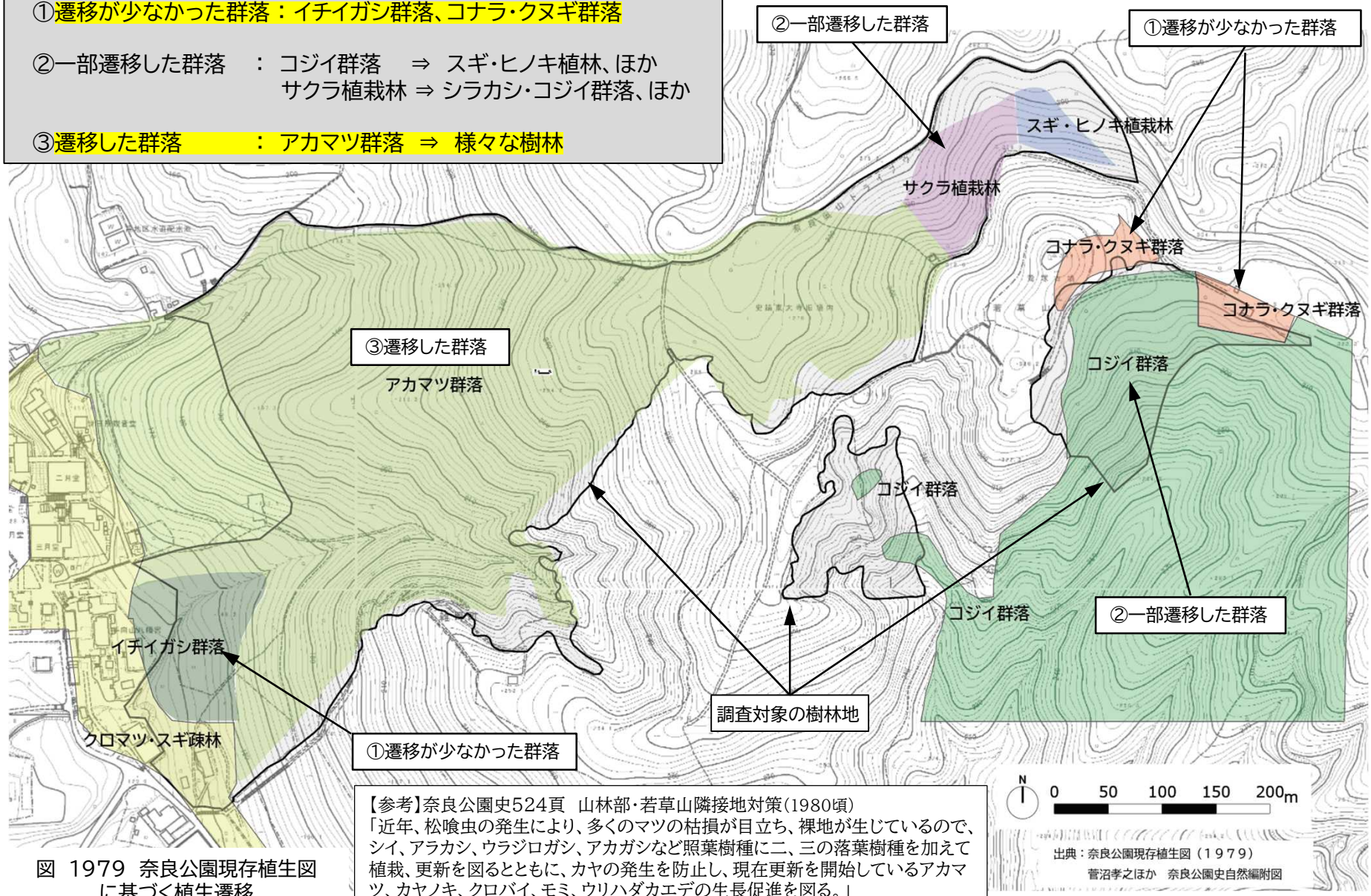

図　1979　奈良公園現存植生図
に基づく植生遷移

【参考】奈良公園史524頁　山林部・若草山隣接地対策（1980頃）
「近年、松喰虫の発生により、多くのマツの枯損が目立ち、裸地が生じているので、シイ、アラカシ、ウラジロガシ、アカガシなど照葉樹種に二、三の落葉樹種を加えて植栽、更新を図るとともに、カヤの発生を防止し、現在更新を開始しているアカマツ、カヤノキ、クロバイ、モミ、ウリハダカエデの生長促進を図る。」

2－1　樹林の変遷　1979現存植生図／1995航空写真／2024相観植生図（8頁）の比較

1979～1995の変化

①樹林3西側に樹木が植栽されている。

1995～2024の変化

②樹木がないところが、ナンキンハゼ林に変化する。
③樹木のないところに、シラカシやスギ等が植林される

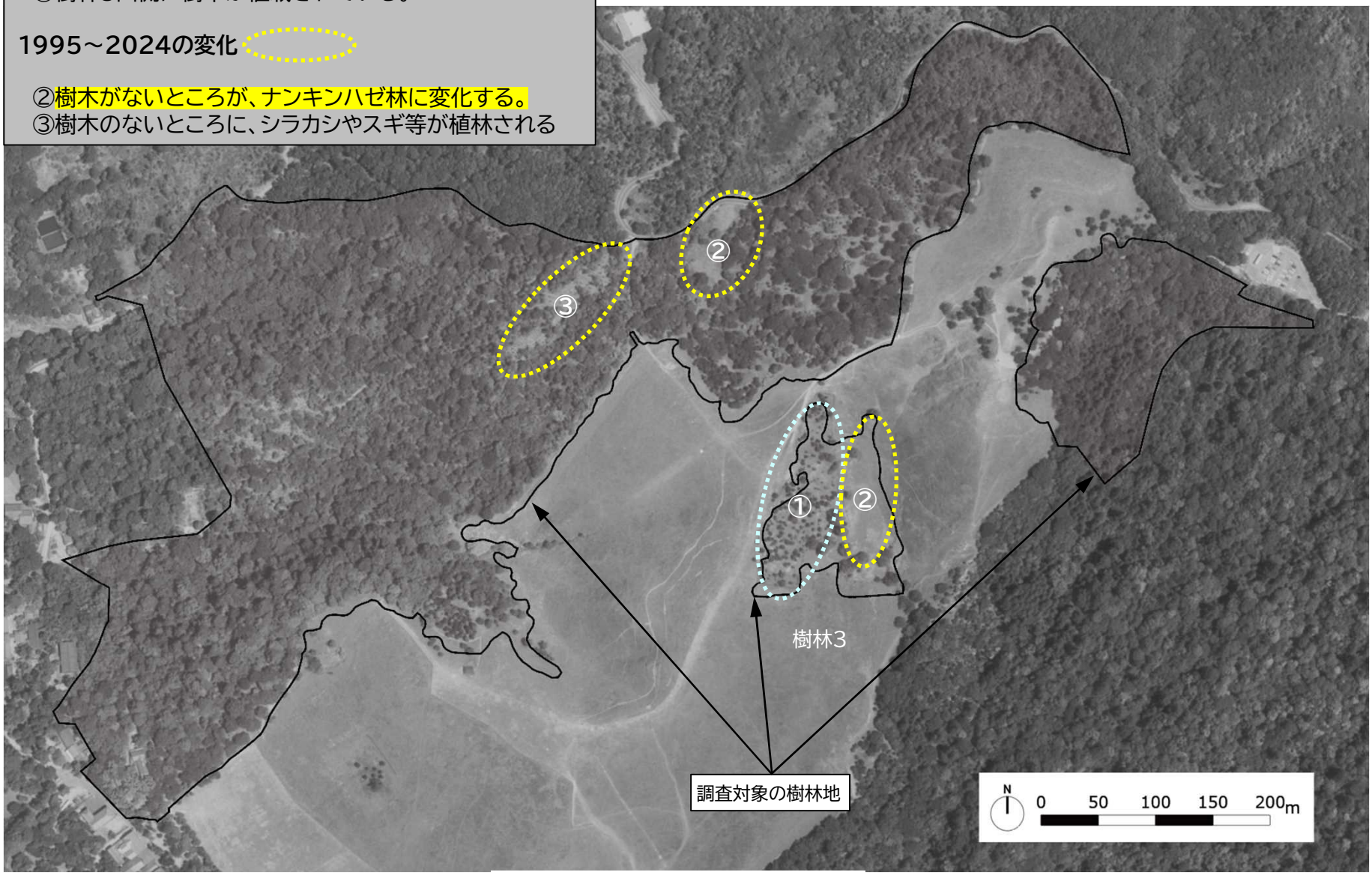

図　1995　航空写真に基づく植生遷移

2－1　樹林の変遷　1979相観植生と2024大径木分布の比較

1979の相観植生と2024大径木分布（巨木リスト）

・モミの巨木は全域に分布している。
・イチイガシの巨木は、手向山神社の背山山麓付近に集中する。
・樹林２のスギ・ヒノキ植栽林やサクラ植栽林には巨木がないことから1979年当時の樹齢は若かったと考えられる。

樹林区分	樹　種	幹周(cm)	樹高(m)
樹林5	モミ	307	30
樹林5	モミ	310	7
樹林5	モミ	314	28
樹林5	モミ	315	30
樹林5	モミ	317	28
樹林5	ヤマザクラ	329	24
樹林5	モミ	334	28
樹林5	モミ	334	25
樹林5	モミ	343	25
樹林5	モミ	355	28
樹林5	クヌギ	355	18
樹林5	モミ	355	30
樹林5	モミ	364	30

樹林区分	樹　種	幹周(cm)	樹高(m)
樹林7	クスノキ	301	16
樹林7	イチイガシ	302	32
樹林7	モミ	305	30
樹林7	イチイガシ	308	30
樹林7	イヌシデ	309	26
樹林7	モミ	309	30
樹林7	イチイガシ	310	27
樹林7	モミ	310	32
樹林7	モミ	311	32
樹林7	モミ	312	30
樹林7	モミ	313	33
樹林7	モミ	324	32
樹林7	モミ	325	28
樹林7	エドヒガン	328	15
樹林7	モミ	332	30
樹林7	モミ	333	33
樹林7	モミ	335	30
樹林7	イチイガシ	336	21
樹林7	モミ	339	23
樹林7	モミ	343	28
樹林7	モミ	354	32
樹林7	モミ	358	33
樹林7	イチイガシ	361	29
樹林7	ケヤキ	365	20
樹林7	クスノキ	367	30
樹林7	イチイガシ	370	35
樹林7	モミ	370	35
樹林7	モミ	405	35
樹林7	イチイガシ	419	27
樹林7	イチイガシ	436	28
樹林7	イチイガシ	445	28
樹林7	クスノキ	449	28

樹林区分	樹　種	幹周(cm)	樹高(m)
樹林6	クヌギ	301	28
樹林6	イチイガシ	306	15
樹林6	モミ	310	25
樹林6	エドヒガン	313	14
樹林6	ケヤキ	334	25
樹林6	コナラ	349	15

樹林区分	樹　種	幹周(cm)	樹高(m)
樹林1	モミ	300	28
樹林1	コジイ	300	24
樹林1	クスノキ	320	18
樹林1	スダジイ	323	28
樹林1	コジイ	324	25
樹林1	コジイ	326	25
樹林1	スギ	327	25
樹林1	スギ	340	20
樹林1	コジイ	349	28
樹林1	モミ	370	28
樹林4	モミ	304	19
樹林4	モミ	309	5

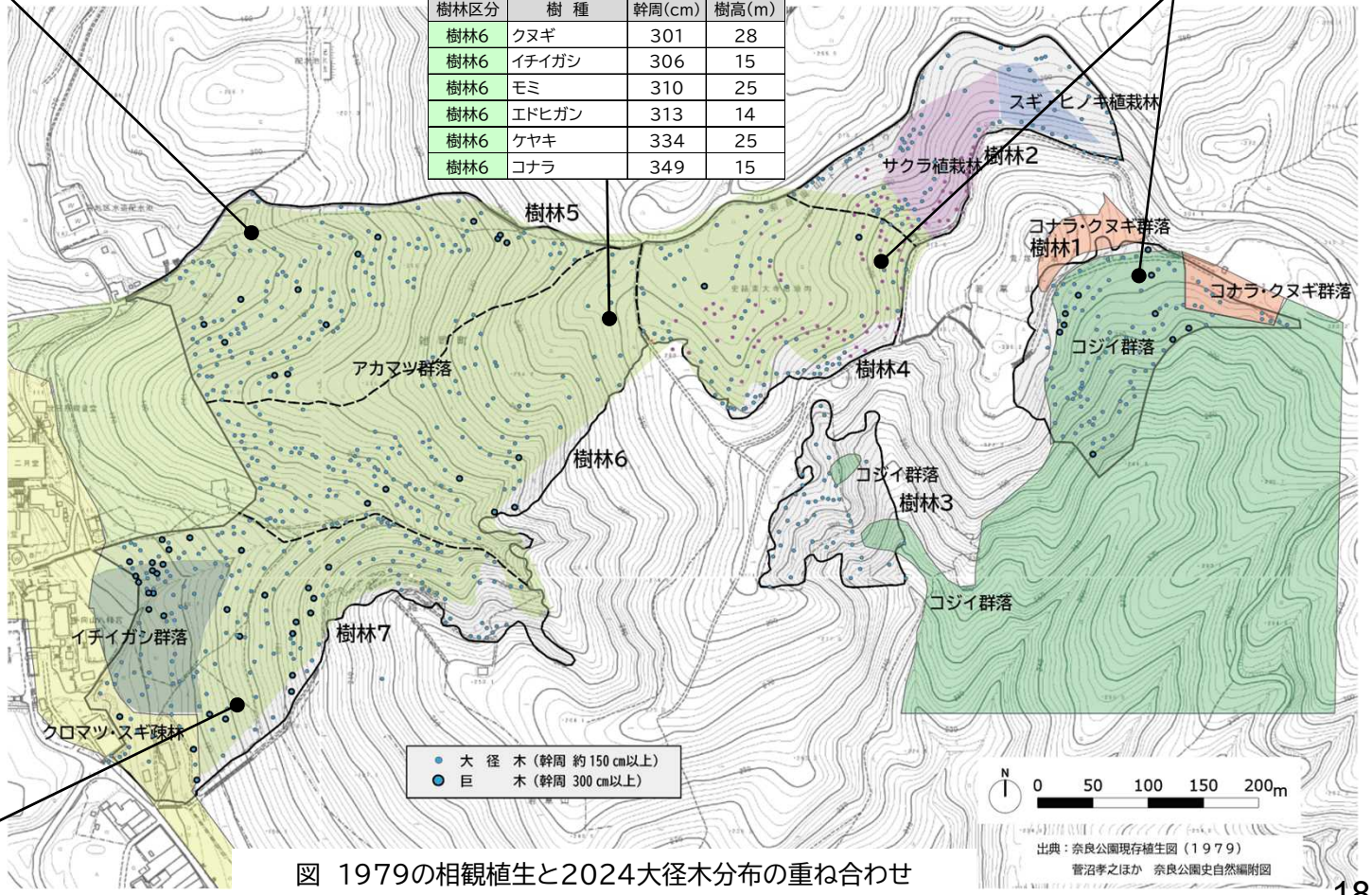

図　1979の相観植生と2024大径木分布の重ね合わせ

2－2　相観植生とナンキンハゼ分布

・樹林5・6の4-1・4-2イヌガシ－ウリハダカエデ群落にナンキンハゼが多い。

・樹林4の10サクラ植林の谷地形にナンキンハゼが多い。

・他のナンキンハゼは、湿地や水系、ギャップ（ナラ枯・風倒）に多く見られる。

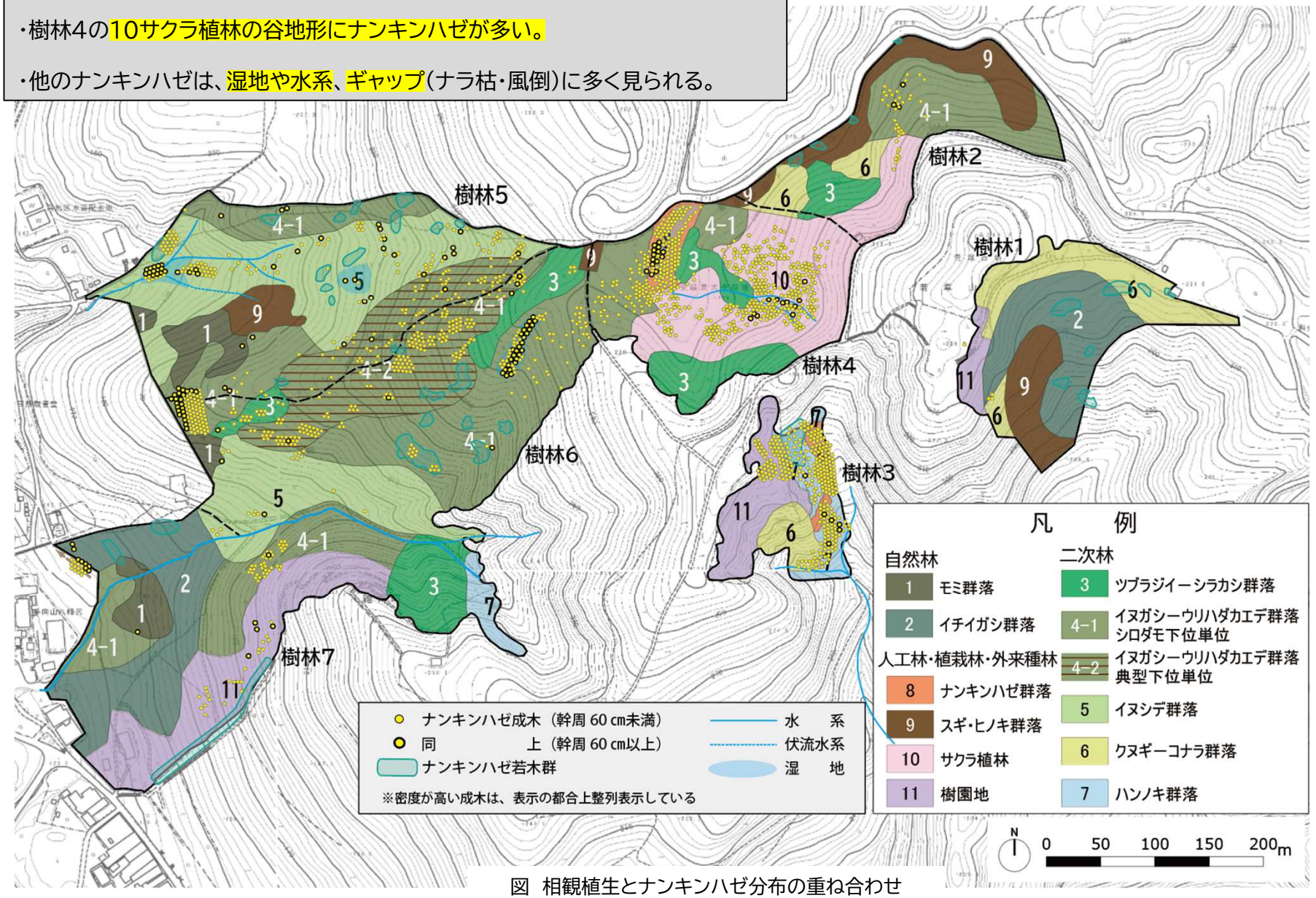

図　相観植生とナンキンハゼ分布の重ね合わせ